

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人東京外国語大学

1 全体評価

東京外国語大学は、世界の言語とそれを基底とする文化一般につき、理論と実際にわたり研究教授し、国際的な活動をするために必要な高い教養を与え、言語を通して世界の諸地域に関する理解を深めることを目的としている。第3期中期目標期間においては、これまで培ってきた日本を含む世界諸地域の知識・経験を基に、地球的課題に取り組み、世界諸地域の人々と協働できる多言語グローバル人材を養成するとともに、グローバルな視点に基づく世界諸地域の政治・経済・社会、文化・諸言語の研究並びに日本及び日本語に関する研究を推進すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、事務職員の英語運用能力の向上の取組やCEFR-Jに基づく言語運用能力達成度の評価を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 招へい教員による授業、協定校における教育実習、協定校学生とのタンデム学習等、多様な形態のJoint Education Programを32件実施している。また、「留学200%」計画推進のため、ショートビジットとして86科目162プログラムを開講し、40か国・地域の84プログラムに609名の学生が参加している。さらに、ショートステイプログラムにおける受入枠の拡大等により、1,050名の留学生を受け入れている。（ユニット「TUFNSネットワーク中核大学」創生宣言に基づくスーパーグローバル大学事業の推進」に関する取組）
- 地域社会で必要となっている課題解決について、大学での学びを通して実践するため、グローバルコミュニケーションコースのインターンシップ科目にて、学生が府中国際交流サロンの日本語ボランティアと協働し、「日本語が母語でない子どもたち・保護者のための進路・進学ガイドブック」を完成させている。また、JICAと連携して「国際協力論」を開講するとともに、1・2年生を対象としたインターンシップを経済同友会及び日本貿易振興機構と連携して実施している。（ユニット「世界諸地域、特に中東やアフリカで生起する諸問題等に対するわが国の対応力強化」に関する取組）
- 現代アフリカの諸問題に関する研究と教育の拠点としての機能に加え、国内外のアフリカ研究機関との連携を通じて現代アフリカ研究のネットワークを構築し、アフリカと日本の関係強化に資することを目的に「現代アフリカ地域研究センター」を発足させている。（ユニット「世界諸地域、特に中東やアフリカで生起する諸問題等に対するわが国の対応力強化」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載19事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 事務職員の英語運用能力の向上の取組

事務職員の英語運用能力の向上を図るため、英文による協定書や契約書の解釈・翻訳・作成に必要な専門用語に関する基礎知識を身につけ、実務に活用できるスキルの修得を目指す「国際業務対応能力養成プログラム」等の取組を行った結果、TOEIC730点以上の職員の割合は20.9%となっており、第3期目標期間中の中期計画20%以上を達成しているほか、協定手続の効率化、協定書作成の際の活用等、スキル修得の成果が出ている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ CEFR-Jに基づく言語運用能力達成度の評価

言語能力を評価する国際指標CEFRに準拠した大学独自の到達度指標CEFR-Jに基づき、全学生を対象として言語運用能力の達成度の評価を開始している。また、CEFR-Jに準拠した単語・フレーズの学習用のアプリを25言語に対応できるよう開発している。